

# インドネシアにおける美術教育の カリキュラムと実践

福田 隆眞\*・佐々木 宰\*\*

On the Curriculum and Practice of School Arts and Crafts in Indonesia

Takamasa FUKUDA\* and Tsukasa SASAKI\*\*

(Received November 29, 1996)

キーワード：美術教育 カリキュラム 教科書 教材 教員養成

はじめに

- 1 小学校におけるカリキュラムと実践
- 2 中学校におけるカリキュラムと実践
- 3 教育大学のカリキュラムと教員養成
- 4 美術教育の意義

## はじめに

美術教育の特性として、教育全般がそうであるように、文化の伝承と創造ということがある。美術文化には民族、宗教、国家、時代、地域等の様々な成立要因を持っている。特に、情報化・国際化が急速に発展している今日において、世界は狭くなり、合理化や近代化がいずれの地域においても進展している。そのような状況において、伝統的美術文化と現代に即応する美術文化の教育と新しい美術文化の創造ということが、現代の美術教育において重要な課題となりつつある。

ことに経済的成長の急速なアジア諸国において、社会の合理化、機能化、近代化が広く受け入れられてきている。半面、伝統的な美術や工芸といったものが、合理化の波によって、不合理なもの、不便なものとして敬遠されつつある。例えば、シンガポール共和国のように短期間に高度な経済的発展を遂げた国においては、欧米の合理的・近代的生活が普及し、住宅状況から日用品の生産に至るまで合理化されて、伝統的な文化はあらゆる面において失われつつある。このことはわが国においても同様な経過を辿ってきたことであろう。また、現在、経済的に成長を遂げているインドネシア共和国（以下、インドネシア）においても、年々、伝統的文化が失われ、西欧的近代化が普及しつつある。特に、インドネシアのように多民族、多文化、多言語などの要素を持つ複合社会においては、合理性、機能性にアイデンティティを置く傾向にあ

\* 山口大学教育学部

\*\* 北海道教育大学釧路校

るように思われる。

本稿は、そうした複合社会における美術教育の実践の場において、美術教育がカリキュラムとして、どのように位置づけられ、伝統的文化と現代的文化の関係をいかに教育に反映されているか、という観点での実状について調査した報告の一部である。<sup>(1)</sup>

## 1 小学校におけるカリキュラムと実践

インドネシアでは近年まで義務教育は小学校の6年間であったが、1994年の第6次5カ年開発計画（REPULITA VI：Rencana Pembangunan Lima Tahun ke VI）において、今後15年間かけて中学校3年までを義務教育とする計画である。<sup>(2)</sup>1988-89年度において、小学校の就学率は99.6%に達しているが、現実の義務教育においては、校舎の不足、親の経済的負担など就学を妨げる要因が存在している。

小学校の教育課程は1947年、1964年、1968年、1975年、1986年にそれぞれ改訂がなされて、現行のものは1994年に改訂がなされて今日に至っている。新しいカリキュラムは特に読み書き算数の基本的能力をより重視している傾向にある。年間授業日数は最低で240日であり、授業時間は小学校1学年と2学年では30分授業、3学年から6学年までは40分となっている。<sup>(3)</sup>また、学校数生徒数等については1993年のデータでは以下のようにになっている。<sup>(4)</sup>

- ・学校数 国立 138,220 私立 49,647
- ・生徒数 国立 25,564,582 私立 4,059,488
- ・教員数 国立 1,074,302 私立 149,754

小学校の美術教育に関してはその内容は表1に見られるように「工芸・芸術」<sup>(5)</sup>の教科においてなされている。その内容は手工芸、美術、音楽、舞踊、家庭科を含むものであり複合教科となっている。工芸においてもそのほとんどが工作的内容なので本稿では「手工芸と芸術」と称する。カリキュラムに関しては1993年及び1994年に教育文化省からその内容がKURIKULUM PENDIDIKAN DESARとして公表された。<sup>(6)</sup>その内容は別稿でも発表しているが、<sup>(7)</sup>美術教育の基本的内容を理解するために一部を以下に述べる。

学習指導要領の構成は教科の定義、機能、目的、領域、方法、用語解説、授業計画からなっており、教科の定義、機能、目的、領域、方法については小学校第1学年から第6学年までに共通している。

○定義：

手工芸と芸術科目は手を使ってものを作ることについて学習し、美的感覚を養うものである。手工芸と芸術のプログラム内容は生徒の精神を発達させる日常生活から切り離すことができないものである。この教育内容は当該地域社会および地域の文化における手工芸と芸術分野の発展に注意を促す国家的なものである。

○機能：

手工芸と芸術科目は創造的な態度や能力（基礎的な技能）を育成し、情操を豊かにするという機能を持つ。

○目的：

手工芸と芸術科目は、生徒が創造したり、手工芸や芸術を尊重したりするような態度や能力

を育成することを目的とする。

○領域：

手工芸と芸術科目の内容は以下の教材を含む。

1. 遊ぶもの、飾るもの、使うもの、料理の仕方
2. 絵、版画、構成
3. 音楽の要素と創造性を育むもの
4. 踊り、拍子、感情

○方法：

1. 手工芸と芸術科目の内容は統一性をもって行う。
2. 手工芸と芸術科目の学習は理論と実践を切り離してはならないという基本的性質をもつ。
3. 小学校での音楽は、基本的には楽譜を使って教えるが、楽譜が読めない、あるいは、無い場合には数字を使ってもよい。
4. 音楽教育で用いられる歌は、国歌／義務唱歌、当該地域の歌、他の地域の歌である。これらの歌は発達段階に合わせて選ばれる。
5. 準備された教材および施設は、できる限りうまく使用する。特に教育施設が不十分な場合は、地域社会にある教材や道具を借りられるようにする。
6. 手工芸と芸術科目の評価は、学習成果と学習プロセスで行い、今後の能力を発展させるための基盤とする。
7. 創造力の側面では、用いられる教材と教育形態の自由を最優先して、創作活動を行う。

表1 普通校カリキュラムの例

学 校 段 階 教 科 / 学 年	小 学 校						中 学 校		
	I	II	III	IV	V	VI	I	II	III
パンチャシラ・公民教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2
宗 教 教 育	2	2	2	2	2	2	2	2	2
イ ン ド ネ シ ア 語	10	10	10	8	8	8	6	6	6
数 学	10	10	10	8	8	8	6	6	6
理 科	—	—	3	6	6	6	6	6	6
社 会 科	—	—	3	5	5	5	6	6	6
工 芸 ・ 芸 術	2	2	2	2	2	2	2	2	2
健 康 ・ 体 育	2	2	2	2	2	2	2	2	2
英 語	—	—	—	—	—	—	4	4	4
地 域 裁 量 ( 教 科 )	2	2	4	5	7	7	6	6	6
計	30	30	38	40	42	42	42	42	42

領域の解説からも分かるように大きくは、手の機能を高めるための教育内容として、手工芸、家庭科の内容があり、他に芸術教育の内容として美術、音楽、舞踊の領域がある。従って、手工芸ではわが国の工作の領域に加えて家庭科での衣服、装飾といった内容が含まれている。こ

これらの授業は統合的に扱われることはほとんどなく、それぞれの授業内容が単独で行われ、時間数の関係から一つの教科として扱われている。それはインドネシアが多民族、多言語、多文化を有する複合国家であり、「多様性の中の統一」という理念からインドネシア語の教育に時間を要するからである。表1でも解るように小学校低学年ではインドネシア語の授業時間数が3分の1を占めているのが現状である。さらに実際的な生活のために算数が重視され、理科、社会の教育に時間が設定されていないのが現実である。<sup>(8)</sup>それに比して「手工芸と芸術」は週あたりの授業時間数は2時間行われているが、前述のように内容的には、わが国の図画工作、音楽、家庭科そして体育の一部を含んでいるので、必然的に教育内容はそれぞれが限られたものとなっている。

教育文化省の初等教育局のセディオノ (Sediono) <sup>(9)</sup>によると「美術教育はインドネシアの伝統文化の学習や現代的美術文化の創造をするものである。また、子供たちに創造的な活動を促したり、美術を愛好する態度を養うことが必要である。ナショナル・カリキュラムはすでに出来上がっているが、教科書はまだ刊行されていない。市販のものはローカル・カリキュラムである。ナショナル・カリキュラムでの教科書を作成したいと望んでいる」と、美術教育の行政面からの実状を述べている。<sup>(10)</sup>実際に、美術に関する小学校の教科書は市販されており、ジャカルタのような都市部においては児童もそれを購入し、使用している。<sup>(11)</sup>それらは教育文化省が編集・出版したものではなく、また、わが国のような検定制によるものでもなく、地域や州単位の組織で、個人やグループによって編集された自発的な教科書であり、ナショナル・カリキュラムに準拠した内容で編集・出版されているものである。

ナショナル・カリキュラムに示される具体的教育内容としては、次のようなものがあげられている。<sup>(12)</sup>

- 1学年：折り紙、身近な題材の絵、紙工作、コラージュの絵、柔らかい材料での立体
- 2学年：コラージュの絵、物語の絵、紙による遊ぶもの、モンタージュの絵、モザイク、版画
- 3学年：編み物、想像画、シルクスクリーン、
- 4学年：ロンチャン、紙による建物、オーナメント、飾るもの、模型
- 5学年：マクラメ、文字のデザイン、図形のデザイン
- 6学年：布による飾るもの、刺繍、図形のデザイン、展覧会（発表会）

こうしたカリキュラムを基に、実際の小学校での「手工芸と芸術」の授業の実態を知るために、ジャカルタ市内の小学校の一つを見学した。教育文化省実験小学校中央ジャカルタ、テガル10通り小学校<sup>(13)</sup>では、ナショナル・カリキュラムに準拠した「手工芸と芸術」の授業において、図画工作、伝統的な舞踊、民族楽器を使用した音楽、刺繍等の内容がなされていた。この小学校は1960年に開校されたパイロット・スクールであったが、現在では普通の公立小学校となっている。

図1、2は3学年の図形から発想するいわゆる図画工作の授業内容である。すでに教師の方で用意された図形において、児童が装飾を施したり、色を塗ったりするもので、初めから図形のデザインをするというのではなく、与えられた条件の基に創意工夫をするものである。基礎学力の重視という意味にも解することができる。図3、4は4年生の音楽の授業内容で、黒

板に歌詞が書かれており、教師は演奏する楽器を用いなくて、唄い、そのリズムに合わせて児童がついて唄う形式である。施設や設備の面で余儀なくされている方法でもあるが、実際に授業を見学していると、教師のほほえましさと厳しさが伝わってくる授業である。

また、図5、6はアングロンと呼ばれる民族楽器を使用した、同じく4年生の音楽の授業である。この楽器は西ジャワ地方の竹を利用した伝統的な楽器であり、教師はその演奏の仕方を十分に説明した後に、正しい楽器の持ち方を児童に習得させて、合奏させるものであった。楽譜は無く、黒板に教師が記号や数字を用いて楽譜の代わりになるものを示し、児童はその楽譜を見ながら合奏するのである。教室内に竹の音色が響きわたり、伝統的な音楽が奏でられていた。

図7、8は5年生の舞踊の授業である。伴奏となる音楽はカセットテープを利用して、普通教室2つ分くらいの広さの教室を使って、一クラス全員が民族舞踊を踊ることができる。部分的な学習をしており、同じところを何回か練習して、それらが全員習得できると次に進むような方法をとっていた。

また、別の5年生のクラスでは、家庭科の授業内容に相当する刺繍を行っていた。以前は刺繍の教材は家庭科としての授業内容であったらしいが、教科の統合がなされてからは手工芸として位置づけられているようである。

この学校はジャカルタ市内でも伝統のあるいわゆる名門校である。児童はほとんど全ての教科の教科書を購入することができ、制服の着用も可能な家庭環境にある。ジャカルタは中流層が、近年、急速に増大しており、教育に対しても保護者の意識が高まってきている。授業も教育文化省のナショナル・カリキュラムに準拠した内容で行っているし、ジャカルタという首都の特性から、ローカル・カリキュラムとして英語教育も導入されている。こうした近代化が進んでいる状況において、美術の教育は伝統的、民族的文化を実際に児童の生活環境において実践することはほとんど無く、むしろ文化財の保存という観点と、多民族の多様な中の統一といった、国家の理念の一部になってきているように見受けられる。

## 2 中学校におけるカリキュラムと実践

インドネシアの中学校は普通中学校と職業系中学校があるが、現在では職業系の中学校の卒業ではほとんど社会的な機能を果たすことができない状態で、進学者の大部分は普通中学校に就学している。<sup>(14)</sup>

学校数等については次のようになっており、私立学校によるところが大きくなっている。<sup>(15)</sup>

・学校数	国立	8,069	私立	10,694
・生徒数	国立	4,067,500	私立	2,673,800
・教員数	国立	196,303	私立	154,265

中学校の学習指導要領も1993年に改訂され、美術教育の内容は「手工芸と芸術」の科目に含まれている。内容構成は小学校のものと同様に、以下のようになっている。<sup>(16)</sup>

## ○定義

手工芸と芸術科目は手を使ってものを作ることにについて学習し、美的感覚を養うものである。手工芸と芸術のプログラム内容は生徒の精神を発達させる日常生活から切り離すことができないものである。この教育内容は当該地域社会および地域の文化における手工芸と芸術分野の発展に注意を促す国家的なものである。

## ○機能

手工芸と芸術科目は創造的な態度や能力（基礎的な技能）を育成し、情操を豊かにするという機能を持つ。

## ○目的

手工芸と芸術科目は、生徒が創造したり、手工芸や芸術を尊重したりするような態度や能力を育成することを目的とする。

## ○領域

手工芸と芸術科目の内容は次のようである。

1. 装飾品、衣料品、食品加工および料理の仕方
2. 絵画、版画、構成
3. 音楽的要素への感受性と創造性
4. 舞踊、リズム、感情

## ○方法

1. 手工芸と芸術科目の内容は統一性をもって行う。
2. 手工芸と芸術科目の学習は理論と実践を切り離してはならないという基本的性質をもつ。
3. 中学校における音楽教育はバロック調を用いる。
4. 音楽教育で用いられる歌は、国歌／義務唱歌、当該地域の歌、他の地域の歌である。これらの歌は発達段階に合わせて、童謡から選ぶ。
5. 準備された教材および施設は、できる限りうまく使用する。特に教育施設が不十分な場合は、地域社会にある教材や道具を借りられるようにする。
6. 手工芸と芸術科目の評価は、学習成果と学習プロセスで行い、今後の能力を発展させるための基盤とする。
7. 創造力の側面では、用いられる教材と教育形態の自由を最優先して、創作活動を行う。

このように、中学校においても美術教育の内容は小学校とほとんど同じで、生徒の発達を加味した内容の実施の相違があるにすぎない。実際の教育内容についてナショナル・カリキュラムでは次のようなものを示している。

- 1 学年：作例を基に描く絵画、感情を表現する絵画、柔らかい材料による日用品、イラスト
- 2 学年：硬い材料による日用品、広告のためのデザイン、パース、装飾品、彫刻
- 3 学年：発表会、発表会のデザイン、作品の批評、鑑賞

こうした教育内容に対して中学校は義務教育化されてきたばかりであり、小学校と同様にナショナル・カリキュラムによる教科書は教育文化省からは作成されていない。小学校と同じく、民間のローカル・カリキュラムによる教科書はすでに市販されている。<sup>(17)</sup>

授業時間に関しては、表 2 から分かるように美術が週あたり 1 時間ないし 2 時間である。

中学校になると教科の独自性が強くなるために、カリキュラムでは「手工芸と芸術」という教科でひとまとめにはしてあるが、実際には、美術、音楽、体育といった授業でなされている。

表2 2部制授業の時間割の例（ジャカルタ市第12中学校）

時 限	月	火	水	木	金	土	時刻（月～木）	
午前 の 部  3年 1組	1	集会	体育	物理	—	宗教	英語	7:00—7:45
	2	体育	体育	物理	—	美術	英語	7:45—8:30
	3	地理	代数	道徳	—	国語	生物	8:30—9:15
	4	数学	国語	代数	数学	数学	生物	9:15—10:00
	5	数学	国語	職業	数学	数学	地理	10:15—10:55
	6	音楽	英語	国語	道徳	—	地理	10:55—11:35
	7	歴史	英語	経済	英語	—	—	11:35—12:15
午後 の 部  2年 8組	1	道徳	国語	—	英語	代数	数学	12:35—13:35
	2	地理	地理	—	英語	—	数学	13:15—13:55
	3	数学	数学	—	国語	国語	体育	13:55—14:35
	4	数学	数学	国語	代数	国語	英語	14:35—15:15
	5	美術	生物	職業	道徳	経済	英語	15:30—16:10
	6	物理	生物	音楽	体育	宗教	集会	16:10—16:50
	7	物理	物理	歴史	体育	—	—	16:50—17:30

ジャカルタのような大都市においては教育環境の設備も比較的整っており、図9のように美術教室も設置されている。このジャカルタ第12中学校は市内でも伝統のある学校の一つで、午前のクラスが21学級、午後が17学級という大規模校である。<sup>(18)</sup> 図9に見られるように美術教室には生徒の作品が展示してあり、民族的な絵画や工芸、現代的なデザインや構成の作品が見受けられる。

「手工芸と芸術」科目の一つとして、図10のように料理がある。この教科が家庭科の内容を含んでいるとはいえ、それは料理と刺繍、被服の一部にすぎないものであり、料理も盛りつけのような造形的な内容をもっているし、刺繍と被服もデザイン、工作の内容をもつものであるから、教科の特性を拡大して考えれば、手工芸という領域に入るものである。図10は2学年の授業で、地域の料理を作るという題材である。ワジック（wajik）という甘味料の強い焼き飯のような料理の一種である。女子生徒がおもに作り、男子生徒が盛りつけを行うものであった。同じく、2学年の刺繍の題材が図11である。女子も男子も同じ学習をしており、テーブルマットのような作品を作っていた。図12は絵画の分野であるが、通常の授業ではあまり絵画だけを扱うことは少なく、特別に選ばれた生徒の作品制作であった。

図13、14はバンドン市内の公立中学校の授業風景である。<sup>(19)</sup> この第12中学校は市内の中心部に近いところに位置し、各学年8クラス、生徒数1,060名という大規模校の一つである。バンドンでも最近では生徒の素行が乱れてきており、この学校も市街地にあるため、非行に走る生徒が増えてきているという。また、生徒の中には越境入学をしているものがあり、そのために

学校と地域との関係が希薄になってきているということである。

教師は52名であり、美術を担当する教師は1名である。美術教師、アリン・クルニアシィ (Alin Kurniasih) は地域の美術教育のリーダー的存在であり、教材研究、教科書の自費出版、校内、地域の展覧会活動などを積極的に行っている。筆者が訪問した日の授業は、図13のように椰子の殻を使ったデザイン・工芸であった。椰子の殻を利用して、灰皿、花瓶、柄杓のいずれかを作るというもので、2学年のあるクラス45名の生徒が、それぞれ自宅から用意してきた用具で椰子の殻を削り、工作をしているところであった。基本的に学校の備品が不足しており、彫刻刀、ナイフのような道具を常備することができない状況であり、また、生徒個人においても教材を準備する経済的余裕もない状況である。そうした状況で、美術教育の意義についてアリンは次のように述べた。「美術教育の基礎は、生徒たちがもともと持っている美への愛好心を開発し、美術に興味を持たせ、表現技術を習得させることである。そして、美術教育の目的は創造性を高めること、技術を習得することである。技術を習得することにより、学校を中途退学した場合でも、就職ができるようにしてやりたい。」<sup>(20)</sup>ここでの技術習得という内容は多分に工芸的な技術を意味している。実際に、社会において、就職として有用な領域は工芸的な技術である。

アリンによると授業で作られた美術の作品は全て学校が保管して、年に何回かのバザーを行い、そこで即売されるそうである。生徒や保護者がどうしても生徒自身が制作した作品が欲しい場合においても、バザーで買い取るということである。こうして得られた資金は学校の施設、設備のために使用されるとのことである。美術の教科書についても、前述のように市販されているものがあるが、生徒の経済的状況によってほとんど購入する余裕がなく、アリンは自費出版をしている。<sup>(21)</sup>この教科書は66ページからなっており、印刷・製本をして生徒に販売している。その内容は、美術史、絵画、美術批評、教室での展覧会、構成、学校での展覧会の項目からなっており、学校の実態に合わせた内容となっている。ナショナル・カリキュラムには必ずしも全て準拠しているわけではなく、むしろ、ナショナル・カリキュラムを包括し、さらに彼女が必要と考えた内容を追加している。例えば、美術史などはそうである。ナショナル・カリキュラムでは宗教上の相違や民族的相違によって、統一した美術史を列記することが困難である。アリンの教科書はまさにローカル・カリキュラムといえるもので、美術史の項目にはヒンドゥー教の美術史などが取り上げられている。そして、この題材は授業でも反映され、3学年ではグループ活動で身近な美術作品の調査を課して共同研究のようにして、報告書まで作成している。

このように、ナショナル・カリキュラムはあくまでも教育の指針であり、基礎的な内容を包括したものである。多民族、多文化の複合社会であり、地域の特性や実態があらゆる面において異なっている状況では、美術教育も地域の特性と実態に即した教材がローカル・カリキュラムとして必要となる。また、すでに実施されている「地域科」という地域の裁量で授業内容を決定できる教科が、中学校においても有効となると思われる。<sup>(22)</sup>

### 3 教育大学のカリキュラムと教員養成

インドネシアにおける教員養成は、教育大学、教育学部、教員養成単科大学の3種の機関で



行われている。なかでも教育大学（IKIP）は教員養成の多くを占めている。それらは、ジャカルタ、バンドン、スマラン、ジョクジャカルタ、スラバヤ、マラン、メダン、パダン、マナド、ウジュンパンダンの計10校が設置されている。

教育大学には6つの学部があり、教育学部、言語・芸術教育学部、数学・理科教育学部、社会科教育学部、技術・職業教育学部、体育・健康教育学部である。美術教育は言語・芸術教育学部に属しており、この学部には、インドネシア語・インドネシア文学、英語教育、外国語教育（ドイツ語、アラビア語、フランス語、日本語）、地方語教育（スダ語）、美術・工芸教育、演劇・舞踊・音楽教育のそれぞれのコースがある。

筆者が直接訪問し、調査したのはバンドン教育大学とジョクジャカルタ教育大学である。このうち、ジョクジャカルタ教育大学は、今後4年間で州立の総合大学に改組されることになっている。前述のように教育大学には6つの学部が設置され、それぞれが専門教育がなされており、また、学生の就職も教員から一般社会への就職率が増大してきているために、社会に対応した教育大学の改組が行われている。<sup>(23)</sup>

バンドン教育大学における美術教育のカリキュラムでは概ね次のような授業で構成されている。<sup>(24)</sup>

- 一般教育科目：イスラム教教育、キリスト教プロテスタント教育、カトリック教教育、ヒンドゥー教教育、仏教教育、パンチャシラ教育、体育、環境・社会・文化・科学教育等
- 教育基礎科目：教育研究、学習指導論、教育経営、教育課程と教授論
- 教育過程講義科目：教育方法論、教育計画論、教育評価、教育実習プログラム、教育調査研究
- 研究講義科目：英語、絵画、美術史、デザイン、インドネシア語、工芸、製図、イラストレーション、美術理論、純粹美術、教育メディア、卒業研究、卒業試験
- 発展科目：美術理論、工房制作
- 追加科目：美術史、絵画、製図、デザイン
- 選択科目：美術史、工芸、絵画、製図、イラストレーション、デザイン、教育メディア

以上のような授業科目で構成されている。また、ジョクジャカルタ教育大学においては、概ねバンドンと同様であるが、以下のようになっている。<sup>(25)</sup>

- 1期：宗教（イスラム、カトリック、キリスト・プロテスタント、ヒンドゥー、仏教）、教育科学入門、テクニカル・ドローイング、美術理論、描画、基礎デザイン、インドネシア民族芸術研究、工芸
- 2期：パンチャシラ、学習論、パース、インドネシア美術史、描画、装飾デザイン、工芸
- 3期：自然科学、教育心理、美術教育カリキュラム調査、東洋美術史、イラストレーション、静物描画、平面構成、立体構成
- 4期：インドネシア社会概論、カウンセリング、デザイン教育、西洋美術史、静物描画、イラストレーション、平面構成、立体構成

- 5期：人口統計・環境教育、教育管理、美術教育評価論、美学  
 (美術専攻) 絵画、グラフィック・アート、グラフィック・デザイン、インテリア・デザイン、木材工芸、金属工芸  
 (強化プログラム) 写真、パティック、皮革工芸、木材工芸、金属工芸、陶芸、竹工芸、銀細工
- 6期：パンチャシラ哲学、社会人類学教育、マイクロ教授法、美術教育研究  
 (美術専攻) 絵画、彫刻、視覚伝達デザイン、インテリア・デザイン、陶芸、染織  
 (強化プログラム) アニメーション、パティック、皮革工芸技術、木材工芸技術、金属工芸技術、陶芸、銀細工技術、竹工芸技術
- 7期：教育実習、美術経営、基礎研究、美術研究  
 (強化プログラム) 美術批評、  
 (美術専攻) グラフィック・アート、彫刻、視覚伝達デザイン、造園、皮革工芸、バスケット
- 8期：卒業制作、美術教育、卒業試験、  
 (美術専攻) 実験美術、生産デザイン、工芸デザイン

以上のように、これらの2つの教育大学でのカリキュラムを比較してみると、バンドン教育大学では教育学を重視し、ジョクジャカルタ教育大学では美術内容を重視している傾向が見られる。教育大学の改革が進められている現在、バンドン教育大学は教員養成を重要視し、現在のカリキュラムの強化を図ろうとしている。それに対して、ジョクジャカルタ教育大学では、教科内容を重視し、総合大学への転換を図ろうとしている。ジョクジャカルタにはインドネシア芸術大学があり、さらには教員研修センター芸術部門が設置されていることを考慮すれば、美術教育学科は単なる美術の内容の教育ではなく、教員養成との関係を密にした教育がなされると思われる。

バンドン教育大学での具体的な授業内容としては、図15から図20のようなものがある。図15はいわゆる彫刻の内容であるが、粘土を素材とした基礎的な立体表現で、この場合は人物像をモチーフとした基礎的な技術習得を行っている。実習室には多数の作品が置かれており、夏休みにも拘らず学生が残って制作をしていた。図16、17は工芸の作品である。地域の素材を活かした木材や竹を利用して、基礎的な表現と技術の習得から完成度の高い実用目的を備えた工芸作品まで授業内容として取り扱っている。図18は演劇のポスターのデザインである。描画の技術習得の後に、発展的な作品として視覚伝達デザインの作品制作を行っている。全般的にイラストレーションの表現に対しては積極的に行われている様子が窺われた。図19はブックカバーのデザインである。製図やパースの学習の発展として取り扱っている。図20はレタリングとパッケージのデザインである。基礎的なデザインの学習の発展である。バンドン教育大学での美術教育学科の授業では、これらの他に基礎的な内容を重視しており、基礎的表現技術の習得を重視しながら、それらが美術教師としての教授能力に関連するカリキュラムを設定している。バンドンには美術関係の大学として、バンドン工科大学があり、そこではデザインと美術の専門教育がなされている。従って、教育大学では美術教師の養成という観点で美術を位置づけており、地域の素材を活かした教材化や、教育的意義のある伝統的美術や美術史といった内容を重

視していると考えられる。

ジョクジャカルタ教育大学ではカリキュラムの内容構成からも分かるが、美術の内容の習得が重視されている。それらは伝統的な美術・工芸と現代的なデザインやメディアが授業科目の多くを占めている。ジョクジャカルタにはその周辺に伝統的な工芸文化が存在し、パティック研究所<sup>(26)</sup>や銀細工やワヤンのコタグデ<sup>(27)</sup>や陶芸のカソンガン<sup>(28)</sup>等がある。ジョクジャカルタはこうした地域の地場産業に恵まれた環境にあるので、美術教育の教材としても、産業との関連を密にした内容が取り上げられている。このことは教育大学だけでなく、職業高等学校や高等学校教員研修センター等においても同様なことがみられる。<sup>(29)</sup>また、美術教育の方法や研究に関しては、実施的な児童・生徒の作品を収集して分析するなどの実態的な授業内容が行われている。

#### 4 美術教育の意義

以上は小学校と中学校及び教員養成に関する美術教育のカリキュラムと実践を、調査をもとに述べた。小学校と中学校に関しては、ナショナル・カリキュラムに基づく教育内容の概要と実践であるが、カリキュラムと実践を関係づけるのは教師の美術教育に対する積極的な考え方や熱意を要するものである。わが国でも同様に学習指導要領の表面的理解だけで教育が実践されるものではないのである。教師個人の資質とその資質を發揮することのできる教育環境が必要となる。前章までに調査した実践では、教師の資質や熱意と教育環境の整った事例であると考えられる。従って、広大なインドネシアの美術教育の実態は計り知れないものがあることを筆者は認識している。それらの認識の上で、美術教育カリキュラムと実践でのいくつかの所感を以下に述べて、この稿のまとめとする。

多文化社会、複合社会における多様性の中の統一は、教育に限らずいかなる分野においても多くの問題を憂慮していることが推測できる。美術教育に関しては、美術文化という基盤と教育という営為の両者によって成立しているので、美術に対する認識、動向といったものから、国が期待している社会や人間像を想定して位置づけることが必要であろう。そのひとつに伝統的文化の問題がある。美術における伝統的文化は民族や国家における物質的・精神的財産の一つである。特に、多民族、多宗教、多言語を有するインドネシアにおいては、伝統的美術・工芸が美術文化の基盤をなしている状況にある。ことに工芸においては、古くからの地域社会での表現形式や技術・技法を伝承しながら、常に同時代に生きてきたものである。同時にそれは産業とも結び付いている。小学校、中学校のナショナル・カリキュラムでは、教科名からも判断されるように「手工芸」を重視している傾向にある。それは美術文化の中で伝統的工芸が現代においても十分に存続し、意義あるものとして社会に受容されているからであろう。特に、大都市以外の地域においては、まだまだ手作りによる産業が社会的に成立している。それらは日常の生活用品となったり、あるいは観光産業のお土産品となっているが、美術・工芸の機能をはたしている部分である。

また、舞踊のような芸術は、観光産業の一環となっているものもあるが、<sup>(30)</sup>小・中学校の教材となっている事実は、伝統文化の継承と教養教育であると考えられる。多様性の中の統一は多様性を認めることから出発する発想であろう。そのために、地域や民族の芸術文化を多様

に理解することが、教育として意義あることである。

一方、社会の近代化、現代化ということが美術教育においても大きく影響を及ぼしている。それは産業の近代化であり、文化の現代化というかたちで美術に影響している。経済の発展によって日常生活は、特に、都市部においては、近代化を遂げてきている。合理主義的な、機能的生活を期待している現れである。そうした生活面では伝統的な美術文化が身近なものから回顧的趣味になる恐れがある。また、西洋美術の影響によって、美術文化も現代化し、斬新なもの新奇なものに価値づけようとする年齢層や集団が浮上してくるもの事実である。ジャカルタ芸術大学、インドネシア芸術大学等の都市部において芸術を学ぶ学生においては、欧米の様式や理念が作品制作に影響されることは、現代の国際化社会において自然な流れであろう。そこにおいてもインドネシアの固有の伝統美術・工芸を継承・創造する世代もあることは事実である。つまり、現代的美術作品をも多様性の一つとして存在しているのである。さらに、現代社会における美術と産業との関連ではコンピューターやメディアを利用したデザインの存在がある。コンピューターの教育はまだ、美術教育においてはなされていないが、芸術大学でのカリキュラムとして導入されている。多様な表現の一つではあるが、情報化社会が予想されるインドネシアにおいて、こうしたデザインの分野は広く用とを持つと考えられる。そして、それらは伝統的価値観から脱却した新しい価値観を有し、多様性の中の統一の一翼を担う存在となるであろう。教員養成においても、デザインが重視され始めている。

カリキュラムは常に時代を反映するものである。それは、現代社会と近未来社会を指定して作成・実施されるのもである。インドネシアの美術教育においても、ナショナル・カリキュラムは国の大きな流れの中で形作られ、多様性の中にローカル・カリキュラムが組み込まれているのである。

## 注

1 本稿は、平成7年度8年度文部省科学研究費補助金国際学術研究（学術調査）「シンガポール、インドネシアにおける美術・工芸教育の調査及びカリキュラム研究」（課題番号07041061）による報告の一部である。研究代表者：福田隆眞（山口大学教育学部教授）、研究分担者：小平征雄（北海道教育大学教育学部函館校教授）、佐々木幸（北海道教育大学教育学部釧路校助教授）。

また、すでにインドネシアの調査の一部として、「インドネシアにおける美術教育について（1）」、山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第7号、pp.125-139を報告している。

2 ジャカルタ・ジャパン・クラブ「インドネシア・ハンドブック 1994年版」1994 p.35

3 国際協力事業団インドネシア事務所「インドネシア共和国セクター別・基礎資料（第四巻）」1994 p.42

4 前掲書3 p.36

5 資料では「工芸・芸術」となっているが、教科名はKerajinan Tangan dan Kesenianであり、正確には「手工芸と芸術」となるであろう。

6 DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN DIREKTORAT JENDERAL

PENDIDIKAN DASAR MENENGAH, KURIKULUM PENDIDIKAN DESAR, GARIS-GARIS BESAR PROGRAM PENGAJARAN KELAS I – VI, SEKOLAH DASAR (SD) 1993, 1994

この資料に関しては1995年8月の筆者の調査において、教育文化省初等教育局のセディオノ (Sediono) から直接、寄贈いただいた。

- 7 福田隆眞、佐々木幸 「インドネシアの美術教育における学習指導要領の位置づけについて」 山口大学教育学部附属教育実践指導センター研究紀要 第8号 1996 (掲載予定)
- 8 理科の教育はインドネシアの経済的発展にとっても重要であるが、小学校での時間数が少ないので、高等教育での充実を図ろうとしている。1996年8月、国際協力事業団からインドネシア教育文化省に専門家として派遣されている下沢隆元埼玉大学理学部教授からの意見によると、インドネシアの小学校では、インドネシア語に多くの時間が割かれ、科学教育が遅れているので、教育大学、教員研修での充実を図ろうとしているそうである。
- 9 Drs.SEDIONO, Ministry of Education and Culture, Directorate of Primary Education, Science Education Quality Improvement Project
- 10 1995年8月及び1996年8月の調査による。
- 11 実際に市内の書店においては以下のようなローカル・カリキュラムでの教科書が市販されている。それらは1学年から6学年まで揃っている。

DRS.A.HAMID,M.ED. KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN, DIKEMBANGKAN DAN DISESUAKIKAN DENGAN KURIKULUM SD/GBPP 1994, YUDHISTIRA, 1994

Dedi Nurhadiat, KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN, Grasind, 1995

Dra. Yati Priyati S, Djahur, Penuntun Belajar KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN Berdasarkan Kurikulum SD 1994, 1994

また、現行の教育課程の改訂以前のものでは、「美術」という科目名で、ローカル・カリキュラムとして次のような教科書も市販されていた。

OHO GARHA, PENDIDIKAN SENI, seni rupa, BERDASARKAN KURIKULUM YANG DISEMPURNAKAN DENGAN PENDEKATAN CBSA, ANGKASA, 1989

- 12 前掲書 6
- 13 DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN SD NEGERI PERCOBAAN JL. TEGAL 10 JAKARTA PUSAT. 1996年8月10日の調査による。
- 14 職業系の中学校には技術中学校 (ST: Sekolah Teknik) と家政科中学校 (SKKP: Sekolah Kesejahteraan Keluarga Pertama) の2種類がある。前掲書 2 p40
- 15 前掲書 2 p36
- 16 中学校の学習指導要領については、教育文化省中等教育局のRamidjo氏より、教育課程全般に関する資料を提供していただいた。美術教育に関する学習指導要領は、バンドン第12中学校美術教師、Alin Kurniasihから提供された以下の資料をもとにした。

DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN DIREKTORAT JENDERAL PENDIDIKAN DASAR

MENENGAH, KURIKULUM PENDIDIKAN DESAR, GARIS – GARIS BESAR  
PROGRAM PENGAJARAN

SEKOLAH LANJUTAN TINGAT PERTAMA (SLTP), MATA PELAJARAN:  
KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN, 1993 なお、これらの資料のうち、中学校美術科に関するものは広島大学大学院教育学研究科博士課程、中矢礼美の協力を得た。

17 小学校の教科書と同様に、次のような教科書が民間で市販されている。

Rasjoyo, Pendidikan SENI RUPA Untuk SMP, KYD–GBPP 1988, Penerapan CBSA,  
PENERBIT ERLANGGA, 1994

Drs. Dedi Nurhadiat dan Sanggar MGBS, KERAJINAN TANGAN DAN KESENIAN,  
Grasindo, 1996

Dra. Yati Priyati S. Nandang S., Penuntun Blajar KERAJINAN TANGAN DAN  
KESENIAN, GANECA EXACT BANDUNG, 1994

18 Sekolah Menengah Pertama 12, Jakarta. 1996年8月10日の調査による。

19 SMP Negeri 12 Bandung. 1996年8月14日の訪問・調査による。

20 1996年8月14日の調査による。

21 ALIN KURNIASIH, PENDIDIKAN SENI RUPA UNTUK SMP, DITERBITKAN  
UNYUKU LINGKUNGAN SENDIRI BANDUNG, 1994 この教科書は中学校2、3学年  
のために作成されている。

22 「地域科」(Muatan Lokal) に関しては、中矢礼美 「インドネシアにおけるMuatan  
Lokalに関する研究」 広島大学大学院教育学研究科教育行政学専攻修士論文 1995 にそ  
の実態が詳細に述べられている。

23 1996年8月12日、バンドン教育大学 第4副学長FUAD ABDUL HAMIED 及び8月16  
日のジョクジャカルタ教育大学数学・理科教育学部長Drs.Suhardiとの面談・調査による。

24 DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN, INSTITUT KEGURUAN DAN  
ILMU PENDIDIKAN

BANDUNG, KURIKULUM IKIP BANDUNG 1993, KETENTUAN POPOK DAN  
STRUKUTUR PROGRAM.

pp.156–158

25 1996年8月16日、ジョクジャカルタ教育大学美術教育学科教官ハジャー・パマディ  
(Hajar Pamadhi) の提供資料による。

26 バティック研究所はジョクジャカルタ市内にあり、伝統的なバティックの制作技術や新しい  
製品の開発を行っている公的機関である。

27 コタグデはジョクジャカルタ市内の東南に位置する町で、銀細工としては、装飾品、食器  
等を中心とした伝統的な工芸品を制作・販売している。また、ワヤン人形の制作を行って  
いる地域があり、羊の皮によるワヤン・クリと呼ばれる伝統的工芸品の制作・販売を行って  
いる。

28 カソングンはジョクジャカルタ市の南西にある陶芸の村で、伝統的な手法により装飾品か  
ら実用品に至るまでの陶芸制作を行っている。オーストラリア等にも輸出している規模の大

きな陶芸村である。

- 29 高等学校としては国立美術高等学校、国立工業工芸高等学校があり、そこにおいても伝統的な工芸の教材が多数扱われている。また、それらの教員の研修機関としてジョクジャカルタにはPPP KESENIAN（芸術教科教員研修センター）があり、インドネシア全土、近隣諸国から教員が研修に参加している。拙稿、「インドネシアにおける美術教育について(1)」、山口大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要第7号、pp.125-139、を参照。
- 30 例えば、バンドンではアンクルン（angklung）という竹で作られた楽器を演奏しながら、民族舞踊を踊る観光用の公演を民間によって行われている。それには就学前の児童から中学生までが任意に参加している。

## 表 出 典

- 1 国際協力事業団インドネシア事務所 「インドネシア共和国セクター別・基礎資料（第四巻）」1994 p.42
- 2 ジャカルタ・ジャパン・クラブ 「インドネシア・ハンドブック 1994年版」1994 p. 38

## 付 記

本稿の執筆にあたり、1、3を福田、2を佐々木、4を福田と佐々木が担当し、全体を福田がまとめた。また、以下の方々の協力を得たことをあらためて感謝いたします。

BAPAK KAZUSADA OHYAMA, PRESIDENT PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK SHIZUKA YOSHISATO, VICE PRESIDENT PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK HENDRA HANDAJA, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK SHOJI SUZUKI, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK HARIYANRO, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK SARORU TAIRA, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK AGUS, PT.SKYLINE BUILDING

BAPAK DR.YUHARA SUKRA, DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN  
DIREKTORAT JENDERAL PENDIDIKAN TINGGI

BAPAK DRS.SEDIONO, DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN

BAPAK RAMIDJO, DEPARTMEN PENDIDIKAN DAN KEBUDAYAAN

BAPAK DR.JOHN T.SHIMOZAWA, JICA EXPERT, VISITING PROFESSOR IKIP  
BANDUNG

BAPAK FUAD ABDUL HAMIED, IKIP BANDUNG

BAPAK WAWAN DANASASMITA, IKIP BANDUNG

BAPAK DRS.SUGIHARTONO, IKIP BANDUNG

BAPAK DRS.OHO GATHA, IKIP BANDUNG

BAPAK HIDAYAT, IKIP BANDUNG

BAPAK DRS. SUHARDI, M.PD. IKIP YOGYAKARTA

BAPAK DRS. HAJAR PAMADHI, IKIP YOGYAKARTA

BAPAK MARDIYONO SUGENG, IKIP YOGYAKARTA  
 BAPAK DRH. P. SUDARMINTO, GADJA MADAH UNIVERSITAS  
 BAPAK HIROYO SASAKI, JICA JAKARTA  
 IBU KUNTARI ERIMURTI, PPPG KESENIAN YOGYAKARTA  
 IBU ALIN KURNIASIH, SMP 12 BANDUNG

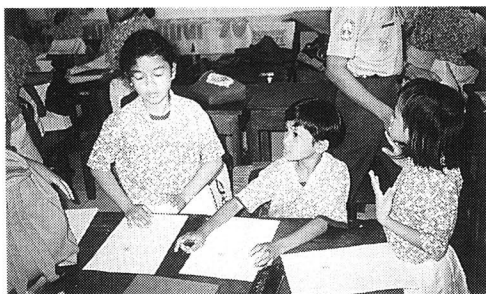


図1 図形からの発想の授業  
 (小学校3学年)

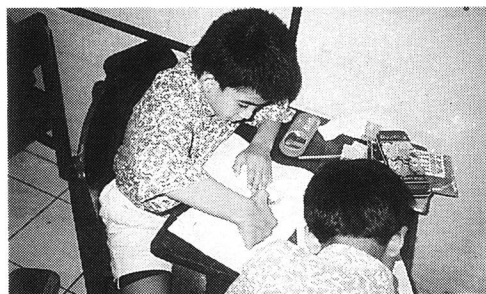


図2 図形からの発想の授業  
 (小学校3学年)

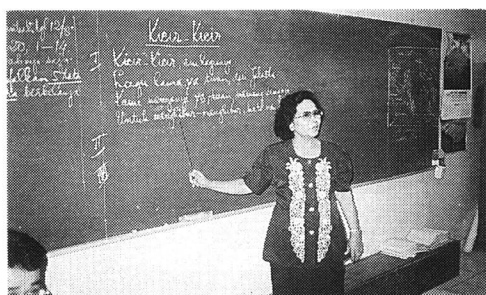


図3 音楽授業風景 (小学校4学年)



図4 音楽授業風景 (小学校4学年)



図5 アンクロンによる音楽授業



図6 アンクロンによる音楽授業





図7 舞踊授業風景（小学校3学年）



図8 舞踊授業風景（小学校5学年）



図9 中学校美術教室  
（ジャカルタ市第12中学校）

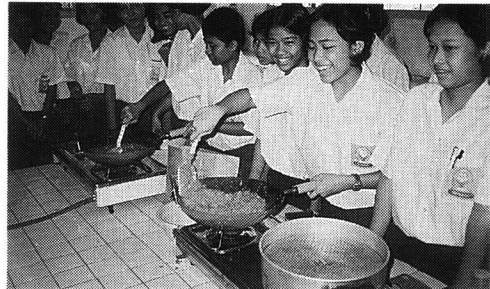


図10 ワジックの料理授業  
（中学校2学年）



図11 刺繍授業（中学校2学年）

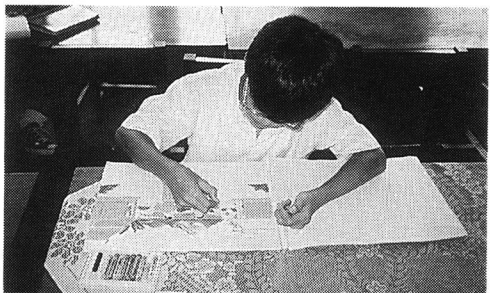


図12 絵画の制作

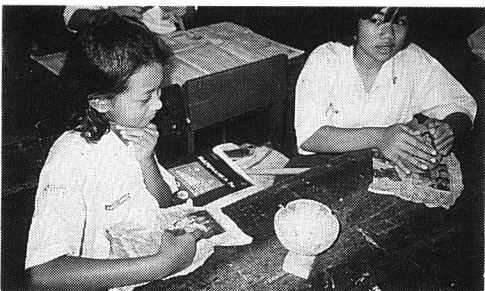


図13 椰子の殻を利用した工芸授業  
（中学校2学年）



図14 アリン先生の授業風景  
（中学校2学年）



図15 彫刻授業（バンドン教育大学）

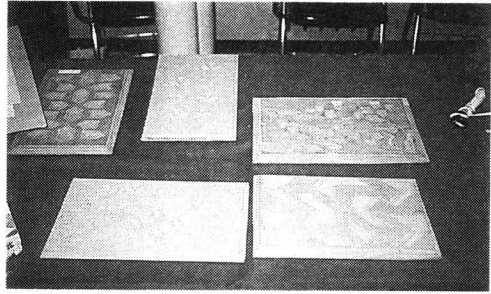


図16 工芸の基礎練習（バンドン教育大学）



図17 木材工芸作品（バンドン教育大学）



図18 演劇ポスターデザイン  
（バンドン教育大学）

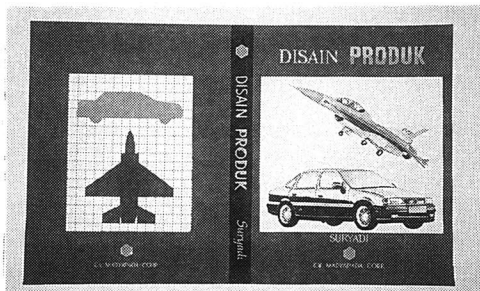


図19 ブックカバーデザイン  
（バンドン教育大学）

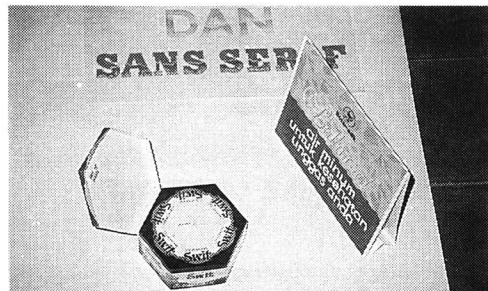


図20 レタリングとパッケージ  
（バンドン教育大学）